

令和5年度病床機能報告の定量基準分析結果について

定量基準分析（埼玉方式）のあゆみ

平成29年度

- 7月 委託業者の公募・業者決定（みずほ情報総研）
- 8月～10月 データ分析方針の検討
- 11月・2月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析方針説明・中間報告・意見聴取

平成30年度

- 4月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析結果報告・意見聴取
- 5月 厚労省主催「地域医療構想に関するワーキンググループ」で事例発表
- 6月 厚労省主催「都道府県医療政策研修」で事例発表
- 8月 「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的な基準の導入について」通知 ※厚労省が各都道府県に埼玉方式の分析ツールを提供

令和元年度

- 2～3月 平成30年度診療報酬改定を踏まえた分析業務の委託（みずほ情報総研）

令和2年度

- 2～3月 分析業務の委託（みずほ情報総研）

令和4年度

- 1～3月 分析業務の委託（みずほリサーチ&テクノロジーズ）

令和5・6年度

- 1～3月 分析業務の委託（健康保険医療情報総合研究所）

※令和3年度は病床機能報告様式2の報告が実施されず、分析の元データが得られなかったため実施していない。

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- ❑ 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすのかが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- ❑ 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線 1・区分線 2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- ❑ 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分				
	主に成人		周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU 小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の急性期一般入院料1 特定機能病院一般病棟 7:1 入院基本料 専門病院 7:1 入院基本料	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の急性期一般1・ 特定機能病院一般病棟 7:1 入院基本料・ 専門病院 7:1 入院基本料 以外 小児科の有床診療所	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等				緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

具体的な機能に応じて区分線を引く

切り分け

区分線 1

区分線 2

機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、急性期一般入院料 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等で特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※...診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、
経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

☆...機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→ これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線 1 で高度急性期に分類される病棟の割合（令和 5 年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			最大使用病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU・HCU	急性期一般病棟1,一般病棟7:1(※)	左記以外の病院一般病棟(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	41.8%	3.1%	1.3%	3.8%	0.0%
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	20.9%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	20.9%	3.6%	0.3%	0.8%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	20.0%	1.0%	0.0%	0.0%	算定不可
	E	脳血管内手術	あり	あり	30.0%	2.8%	0.3%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	21.8%	1.5%	0.6%	1.5%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	11.8%	2.6%	0.3%	2.3%	算定不可
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表面・食道ペーシング法 ・非開胸的心マッサージ ・カウンターショック ・心膜穿刺 ・食道圧迫止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	57.3%	1.5%	0.9%	0.0%	0.0%
	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンポンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓 ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	47.3%	1.3%	0.9%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法 ・胸腔穿刺 ・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	52.7%	2.3%	1.3%	0.8%	0.0%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					77.3%	21.3%	4.1%	9.2%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○急性期一般入院料1（従前の一般病棟7:1）にて多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P：【重症度、医療・看護必要度】

基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「B14又はB15に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線 2 で急性期に分類される病棟の割合（令和 5 年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件				しきい値		該当する病棟の割合				
				最大使用病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	急性期一般病棟1,一般病棟7:1(※)	急性期一般病棟2-7,一般病棟10:1(※)	その他一般病棟(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	K	手術		2.0回/月・床以上	80回/月以上	13.9%	4.3%	2.0%	16.8%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術		0.1回/月・床以上	4回/月以上	22.9%	16.5%	0.0%	1.5%	0.0%
がん	M	放射線治療 (レセプト枚数)		0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	N	化学療法 (日数)		1.0日/月・床以上	40日/月以上	15.7%	2.6%	0.5%	0.8%	1.4%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数		10人/年・床以上	33.3人/月以上	19.3%	8.7%	0.5%	0.0%	2.9%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患	200床以上	I:31%以上	Ⅱ:28%以上	63.8%	38.3%	0.5%	0.0%	5.7%
			200床未満	I:28%以上	Ⅱ:25%以上					
上記K～Pのうち1つ以上を満たす						77.1%	50.4%	3.0%	18.3%	10.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

4機能区分別の病床稼働率について、「(国の基準による)地域医療構想における想定%」と「今回の区分結果の%」との比較表示をしている。

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	108病床	781人/日	1,126床	63.6%	3.9日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	103病床	3,304人/日	4,253床	76.3%	9.7日	
		急性期	296病床	9,896人/日	12,820床	74.4%	11.6日	
		回復期	228病床	6,736人/日	9,659床	71.3%	18.0日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	84病床	3,336人/日	4,163床	83.0%	65.6日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	64病床	2,455人/日	2,991床	80.5%	126.5日	
	医療療養病床	慢性期	173病床	6,855人/日	8,362床	83.0%	167.1日	
周産期	介護療養病床	慢性期	3病床	70人/日	144床	48.8%	121.0日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	29病床	288人/日	457床	65.0%	14.6日	
	産科の一般病床	急性期	78病床	1,190人/日	1,948床	66.0%	5.6日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	15病床	269人/日	398床	67.9%	5.6日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	17病床	288人/日	557床	51.6%	6.5日	
		回復期	5病床	82人/日	156床	53.3%	7.3日	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	6病床	89人/日	130床	68.1%	20.2日	
		慢性期	11病床	172人/日	261床	66.0%	26.3日	
その他	不明	不明/休棟	97病床	1,115人/日	2,254床	46.4%	19.6日	
	休棟・休床中	不明/休棟	41病床	19人/日	853床	2.2%	7.3日	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	255病床	4,642人/日	6,234床	6,384床	5,528床	72.8%	7.8日
急性期 計	397病床	11,462人/日	15,455床	24,194床	17,954床	72.5%	10.3日
回復期 計	317病床	10,154人/日	13,978床	6,468床	16,717床	74.7%	23.6日
慢性期 計	251病床	9,552人/日	11,758床	12,633床	14,011床	81.5%	140.0日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	138病床	1,135人/日	3,107床	853床☆		32.7%	18.9日
全体	1,358病床	36,945人/日	50,532床	50,532床	54,210床	72.8%	16.4日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定できないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

4機能区分別の病床数について、「今回の区分結果」「病床機能報告」「地域医療構想の必要病床数」の3つを比較表示している。

回復期については、入院料や診療科の種類によって、より細分化する形で、病床稼働率を表示している。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	4,642人/日	75.0%	72.8%
急性期	11,462人/日	78.0%	72.5%
回復期	10,154人/日	90.0%	74.7%
慢性期	9,552人/日	92.0%	81.5%
不明	1,135人/日	—	32.7%
合計	36,945人/日	—	72.8%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	83.0%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	77.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	63.7%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	76.7%
うち産科・小児科を除く有床診療所	56.1%
うち小児科の一般病棟・有床診療所	53.3%

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	39床
急性期	1,353床
回復期	338床
慢性期	524床
休棟中・無回答	853床
	3,107床

(参考) 令和4年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	104病棟	715人/日	1,112床	59.9%	3.8日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	94病棟	3,102人/日	3,784床	80.9%	10.3日	
		急性期	349病棟	11,455人/日	14,831床	74.6%	11.7日	
		回復期	200病棟	5,513人/日	8,366床	69.7%	19.2日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	85病棟	3,329人/日	3,985床	86.6%	65.8日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	64病棟	2,479人/日	2,963床	81.2%	108.0日	
	医療療養病床	慢性期	170病棟	7,181人/日	7,905床	88.4%	207.1日	
周産期	介護療養病床	慢性期	4病棟	115人/日	171床	35.2%	173.7日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	29病棟	292人/日	457床	68.7%	14.9日	
	産科の一般病床	急性期	79病棟	1,372人/日	2,033床	73.9%	6.0日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	15病棟	252人/日	398床	63.2%	6.1日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	15病棟	201人/日	465床	46.3%	5.7日	
		回復期	1病棟	0人/日	2床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	3病棟	41人/日	68床	61.0%	18.2日	
		慢性期	16病棟	245人/日	373床	64.8%	24.1日	
その他	不明	不明/休棟	107病棟	2,181人/日	2,728床	43.3%	16.7日	
	休棟・休床中	不明/休棟	39病棟	8人/日	861床	0.0%	-	

4機能ごとに集計

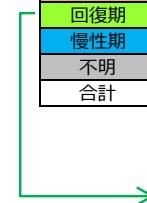
4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	242病棟	4,361人/日	5,751床	6,373床	5,528床	74.6%	8.0日
急性期 計	446病棟	13,070人/日	17,397床	24,887床	17,954床	73.7%	10.4日
回復期 計	286病棟	8,843人/日	12,353床	6,216床	16,717床	75.3%	26.2日
慢性期 計	254病棟	10,020人/日	11,412床	12,165床	14,011床	84.7%	144.2日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	146病棟	2,190人/日	3,589床	861床☆		31.7%	16.7日
全体	1,374病棟	38,484人/日	50,502床	50,502床	54,210床	73.4%	15.9日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	4,361人/日	75.0%	74.6%
急性期	13,070人/日	78.0%	73.7%
回復期	8,843人/日	90.0%	75.3%
慢性期	10,020人/日	92.0%	84.7%
不明	2,190人/日	—	31.7%
合計	38,484人/日	—	73.4%



回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		86.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		69.8%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		64.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		80.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所		48.4%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	158床
急性期	1,386床
回復期	399床
慢性期	785床
休棟中・無回答	861床
	3,589床

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【南部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率	平均在棟日数	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	9病棟	53人/日	88床	54.4%	2.8日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	9病棟	315人/日	415床	76.5%	10.7日	
		急性期	31病棟	1,057人/日	1,378床	74.1%	11.2日	
		回復期	21病棟	575人/日	904床	62.4%	16.7日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	8病棟	344人/日	373床	92.2%	62.3日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	1病棟	42人/日	45床	94.2%	87.2日	
	医療療養病床	慢性期	15病棟	452人/日	729床	68.6%	92.4日	
周産期	介護療養病床	慢性期	1病棟	1人/日	60床	1.2%	3.9日	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	4病棟	26人/日	42床	61.1%	13.5日	
	産科の一般病棟	急性期	9病棟	179人/日	260床	68.4%	6.3日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	1病棟	13人/日	28床	48.0%	3.6日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病棟	15人/日	25床	61.0%	6.0日	
		回復期	1病棟	6人/日	25床	23.3%	3.3日	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	1病棟	12人/日	18床	67.1%	22.1日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病棟	16人/日	24床	65.9%	19.5日	
その他	不明	不明/休棟	3病棟	40人/日	70床	56.7%	26.3日	
	休棟・休床中	不明/休棟	3病棟	0人/日	65床	0.0%	2.0日	

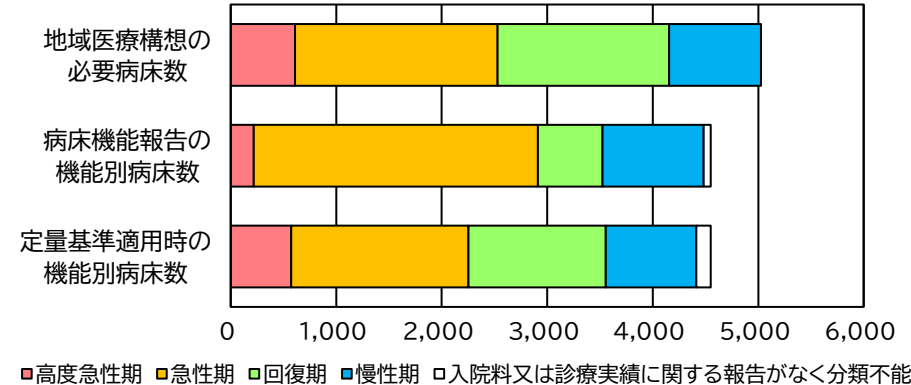
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	23病棟	407人/日	573床	219床	609床	70.3%	7.7日
急性期 計	42病棟	1,263人/日	1,681床	2,694床	1,922床	73.1%	10.3日
回復期 計	30病棟	925人/日	1,302床	610床	1,623床	70.4%	22.5日
慢性期 計	18病棟	511人/日	858床	961床	871床	64.0%	77.6日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	6病棟	40人/日	135床	65床☆		29.4%	26.3日
全体	119病棟	3,146人/日	4,549床	4,549床	5,025床	68.9%	14.1日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- 定量基準適用時の病床数の合計に対する各区分の割合に関しては、地域医療構想の必要病床数の合計に対する各区分の割合に近似している。ただし、地域医療構想の必要病床数に対して、全体病床数が約500床不足しており、4機能区分全てにおいて必要病床数を下回っている現状である。
- その中でも回復期リハビリテーション病棟単体においては病床稼働率が高く、65歳以上の人口増加も見込まれているため、回復期病床を確保することが望ましい。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	407人/日	75.0%	70.3%
急性期	1,263人/日	78.0%	73.1%
回復期	925人/日	90.0%	70.4%
慢性期	511人/日	92.0%	64.0%
不明	40人/日	—	29.4%
合計	3,146人/日	—	68.9%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		92.2%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		67.7%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		49.4%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		85.7%
うち産科・小児科を除く有床診療所		73.0%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		23.3%

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	8床
回復期	62床
慢性期	0床
休棟中・無回答	65床
	135床

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【南西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	17病棟	65人/日	110床	58.9%	3.1日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	10病棟	242人/日	352床	69.1%	8.7日	
		急性期	26病棟	883人/日	1,095床	80.7%	11.7日	
		回復期	25病棟	936人/日	1,119床	78.8%	17.6日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	9病棟	342人/日	395床	86.6%	63.6日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	10病棟	380人/日	433床	87.8%	165.0日	
	医療療養病床	慢性期	15病棟	585人/日	662床	88.3%	229.1日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	3病棟	17人/日	30床	56.0%	15.6日	
	産科の一般病棟	急性期	6病棟	134人/日	157床	85.9%	5.2日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	2病棟	42人/日	85床	49.3%	4.9日	
		回復期	1病棟	13人/日	32床	40.1%	7.0日	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	1病棟	18人/日	20床	91.2%	24.3日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	2病棟	71人/日	79床	90.3%	33.9日	
その他	不明	不明/休棟	7病棟	41人/日	107床	42.6%	29.7日	
	休棟・休床中	不明/休棟	0病棟	0人/日	0床	-	-	

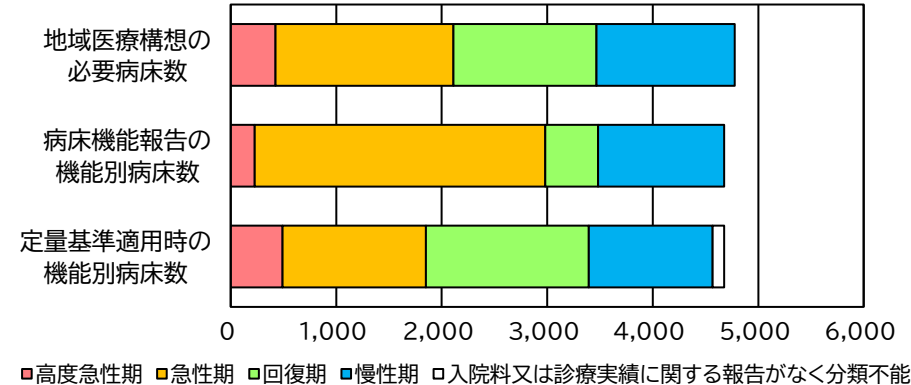
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	30病棟	324人/日	492床	228床	425床	66.0%	6.5日
急性期 計	35病棟	1,078人/日	1,357床	2,754床	1,685床	79.5%	9.7日
回復期 計	35病棟	1,291人/日	1,546床	499床	1,356床	80.1%	21.9日
慢性期 計	27病棟	1,036人/日	1,174床	1,195床	1,311床	88.3%	148.9日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	7病棟	41人/日	107床	0床☆		42.6%	29.7日
全体	134病棟	3,770人/日	4,676床	4,676床	4,777床	79.8%	16.4日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	324人/日	75.0%	66.0%
急性期	1,078人/日	78.0%	79.5%
回復期	1,291人/日	90.0%	80.1%
慢性期	1,036人/日	92.0%	88.3%
不明	41人/日	—	42.6%
合計	3,770人/日	—	79.8%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		86.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		84.5%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		77.2%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		70.5%
うち産科・小児科を除く有床診療所		-
うち小児科の一般病棟・有床診療所		40.1%

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	7床
急性期	100床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	0床
	107床

【集計分析結果から想定される課題】

- 定量基準適用時の回復期病床数においては、地域医療構想の必要病床数を上回っている数少ない圏域（当該圏域と北部のみ）である。
- 地域医療構想の必要病床数の全体数に対して大きく不足している圏域が多い中、比較的必要病床全体数との差が少ない圏域である。その点を踏まえると、現状の全体病床数を変えずとも、一般病棟・地域包括ケア病床等を医療提供の実情や地域医療構想の必要病床数に近い状態にすることで、より一層需要に則した医療体制を構築できる可能性がある。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【東部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	12病棟	80人/日	132床	59.6%	8.1日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	19病棟	529人/日	752床	70.5%	10.5日	
		急性期	49病棟	1,623人/日	2,250床	72.3%	11.3日	
		回復期	28病棟	768人/日	1,203床	65.2%	17.4日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	16病棟	571人/日	923床	76.0%	69.9日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	16病棟	546人/日	700床	72.6%	91.8日	
	医療療養病床	慢性期	17病棟	673人/日	894床	71.0%	226.5日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	6病棟	24人/日	58床	41.3%	10.3日	
	産科の一般病床	急性期	12病棟	179人/日	272床	78.6%	4.8日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	3病棟	52人/日	117床	44.5%	5.9日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	5病棟	58人/日	109床	52.8%	21.2日	
その他	不明	不明/休棟	15病棟	117人/日	314床	33.2%	19.9日	
	休棟・休床中	不明/休棟	5病棟	0人/日	87床	0.0%	-	

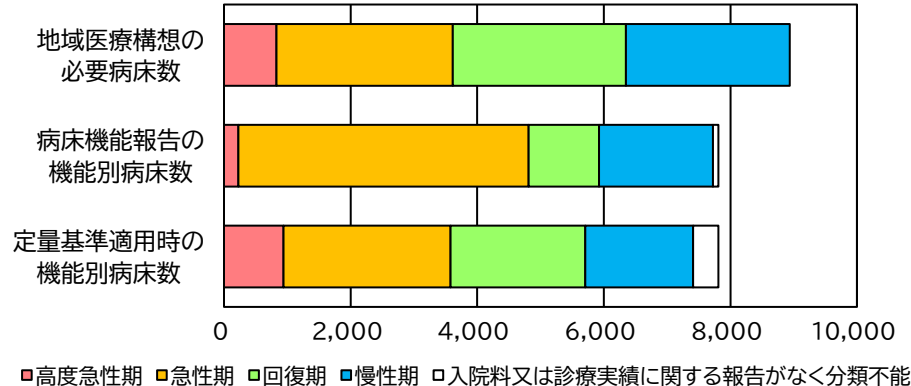
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	37病棟	633人/日	942床	227床	831床	68.2%	10.1日
急性期 計	64病棟	1,854人/日	2,639床	4,587床	2,783床	71.5%	9.9日
回復期 計	44病棟	1,339人/日	2,126床	1,109床	2,734床	69.5%	25.9日
慢性期 計	38病棟	1,277人/日	1,703床	1,801床	2,587床	70.3%	105.1日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	20病棟	117人/日	401床	87床☆		23.3%	19.9日
全体	203病棟	5,220人/日	7,811床	7,811床	8,935床	68.3%	15.7日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満」「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	633人/日	75.0%	68.2%
急性期	1,854人/日	78.0%	71.5%
回復期	1,339人/日	90.0%	69.5%
慢性期	1,277人/日	92.0%	70.3%
不明	117人/日	—	23.3%
合計	5,220人/日	—	68.3%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		76.0%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		77.2%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		54.8%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		60.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所		48.5%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	170床
回復期	21床
慢性期	123床
休棟中・無回答	87床
	401床

【集計分析結果から想定される課題】

- 総病床数は令和4年度(7,743床)と比較して増えているが、地域医療構想の必要病床数にはまだ届いていない状況である。令和4年度に急性期に分類されていた病床が、令和5年度は区分線1を上回り高度急性期に相当する医療内容、および区分線2を下回り回復期に相当する医療内容が行われることで需要を満たしている状況と考えられる。
- 回復期・慢性期病床が地域医療構想の必要病床数に対し大幅に不足しているが、病床稼働率が地域医療構想の想定に対して低いことより、現在の需要は地域医療構想とは異なっている可能性が考えられる。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【さいたま圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	22病棟	143人/日	202床	67.7%	3.4日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	21病棟	767人/日	894床	85.7%	9.5日	
		急性期	44病棟	1,363人/日	1,695床	80.2%	11.1日	
		回復期	31病棟	910人/日	1,295床	72.8%	16.9日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	10病棟	418人/日	487床	85.9%	60.7日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	7病棟	239人/日	300床	78.5%	321.3日	
	医療療養病床	慢性期	19病棟	786人/日	930床	84.0%	186.9日	
周産期	介護療養病床	慢性期	2病棟	70人/日	84床	82.8%	172.8日	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	8病棟	116人/日	144床	85.6%	14.9日	
	産科の一般病床	急性期	15病棟	153人/日	306床	57.2%	6.5日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	197人/日	276床	71.5%	5.8日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	4病棟	52人/日	100床	51.7%	5.0日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	1病棟	6人/日	22床	28.1%	15.0日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	8病棟	58人/日	147床	43.1%	13.3日	
	休棟・休床中	不明/休棟	4病棟	0人/日	50床	0.0%	-	

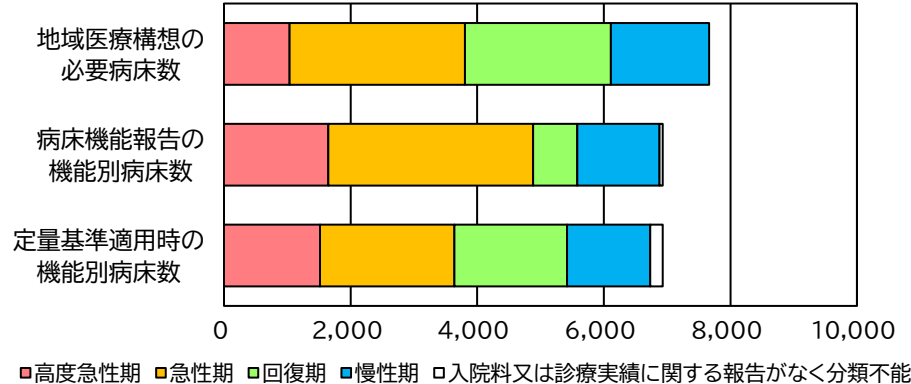
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	62病棟	1,223人/日	1,516床	1,646床	1,039床	80.9%	7.6日
急性期 計	64病棟	1,574人/日	2,123床	3,235床	2,770床	75.2%	10.0日
回復期 計	41病棟	1,328人/日	1,782床	700床	2,301床	76.6%	22.1日
慢性期 計	28病棟	1,095人/日	1,314床	1,301床	1,554床	82.6%	204.8日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	12病棟	58人/日	197床	50床☆		30.7%	13.3日
全体	207病棟	5,277人/日	6,932床	6,932床	7,664床	77.0%	13.7日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	1,223人/日	75.0%	80.9%
急性期	1,574人/日	78.0%	75.2%
回復期	1,328人/日	90.0%	76.6%
慢性期	1,095人/日	92.0%	82.6%
不明	58人/日	—	30.7%
合計	5,277人/日	—	77.0%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		85.9%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		80.6%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		62.9%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		80.3%
うち産科・小児科を除く有床診療所		-
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	30床
急性期	79床
回復期	38床
慢性期	0床
休棟中・無回答	50床
	197床

【集計分析結果から想定される課題】

- 高度急性期に関して、令和4年度調査（1,197床）と比較して変化が大きい。地域医療構想における必要病床数よりも実際に高度急性期として機能していた病床は非常に多かった。
- 急性期と回復期の増減相関傾向も強くみられる。病床稼働率の高い回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟などの増床が期待される。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【県央圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病床	52人/日	80床	64.4%	3.3日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	6病床	247人/日	286床	86.3%	9.0日	
		急性期	22病床	652人/日	935床	77.0%	10.8日	
		回復期	12病床	353人/日	532床	68.0%	19.1日	
	回復期リハビリ病床	回復期	6病床	235人/日	335床	70.1%	74.6日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	2病床	83人/日	91床	90.8%	69.4日	
	医療療養病床	慢性期	16病床	524人/日	668床	82.1%	167.5日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	5病床	62人/日	94床	62.9%	6.6日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病床等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	13人/日	15床	87.2%	3.8日	
		回復期	1病床	0人/日	2床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	2病床	44人/日	56床	78.2%	20.3日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	1病床	10人/日	15床	63.9%	29.3日	
その他	不明	不明/休棟	11病床	103人/日	270床	28.9%	8.4日	
	休棟・休床中	不明/休棟	3病床	0人/日	76床	0.0%	-	

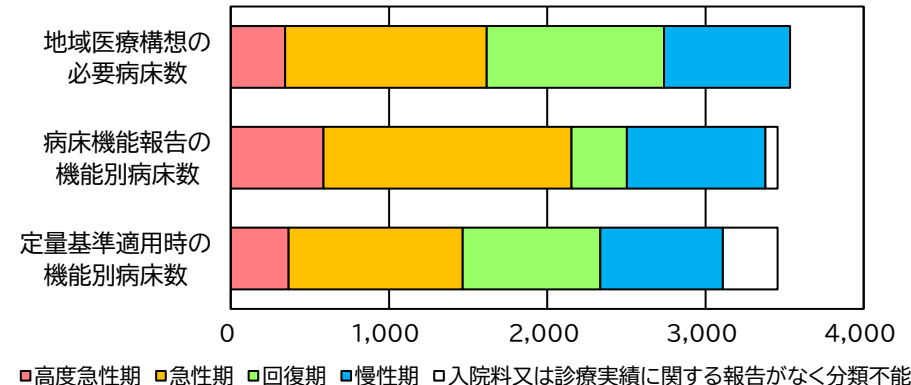
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	13病床	298人/日	366床	587床	344床	81.5%	6.9日
急性期 計	30病床	771人/日	1,100床	1,567床	1,273床	76.3%	10.4日
回復期 計	19病床	588人/日	869床	350床	1,120床	68.9%	28.0日
慢性期 計	19病床	616人/日	774床	875床	797床	82.9%	130.6日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	14病床	103人/日	346床	76床☆		20.9%	8.4日
全体	95病床	2,376人/日	3,455床	3,455床	3,534床	71.3%	15.6日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- 1日当たり入院患者数は、令和4年度調査（括弧内人数）と比較して高度急性期（336人）・急性期（849人）で減り、回復期（498人）と慢性期（714人）が増えており、医療の需要が短期間の診療から長期間の診療へと変容しつつあることが窺える。
- しかし届出病床数では急性期病床が依然として多く、医療提供環境は短期間の診療が充実していると考えられるが、急性期病床の病床稼働率は依然として高いことから需要もあり、今後の動向を注視していく必要がある。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	298人/日	75.0%	81.5%
急性期	771人/日	78.0%	76.3%
回復期	588人/日	90.0%	68.9%
慢性期	616人/日	92.0%	82.9%
不明	103人/日	—	20.9%
合計	2,376人/日	—	71.3%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床		70.1%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1、一般病床7:1		70.7%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床		62.3%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等		68.2%
うち産科・小児科を除く有床診療所		-
うち小児科の一般病床・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	214床
回復期	0床
慢性期	56床
休棟中・無回答	76床
	346床

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	8病棟	71人/日	109床	52.9%	4.3日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	11病棟	276人/日	416床	66.3%	10.7日	
		急性期	43病棟	1,635人/日	1,832床	69.4%	11.6日	
		回復期	34病棟	1,006人/日	1,327床	78.4%	18.5日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	11病棟	495人/日	558床	88.6%	76.5日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	7病棟	306人/日	360床	83.4%	51.4日	
	医療療養病床	慢性期	32病棟	1,303人/日	1,540床	85.5%	250.4日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	7病棟	102人/日	180床	56.8%	15.0日	
	産科の一般病棟	急性期	11病棟	211人/日	310床	70.4%	5.2日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	58人/日	94床	62.6%	5.8日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病棟	15人/日	20床	74.3%	36.0日	
その他	不明	不明/休棟	7病棟	77人/日	147床	52.3%	29.0日	
	休棟・休床中	不明/休棟	8病棟	11人/日	162床	7.0%	7.6日	

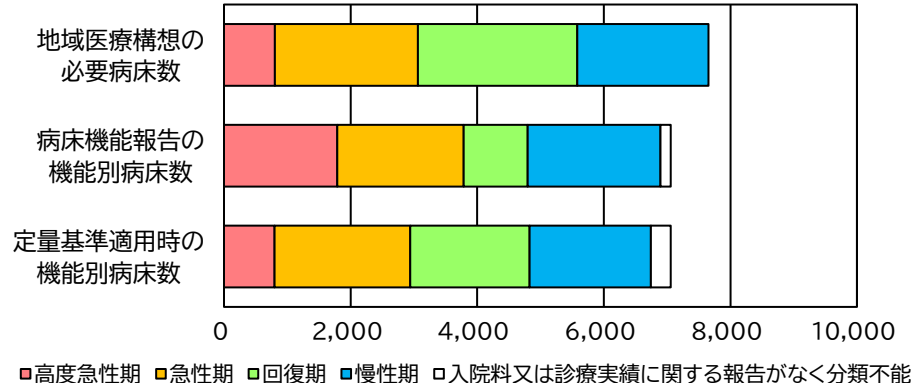
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	29病棟	508人/日	799床	1,790床	802床	62.5%	9.5日
急性期 計	54病棟	1,846人/日	2,142床	1,996床	2,260床	69.6%	9.8日
回復期 計	45病棟	1,501人/日	1,885床	1,011床	2,518床	81.9%	25.7日
慢性期 計	40病棟	1,623人/日	1,920床	2,096床	2,072床	85.2%	169.5日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	15病棟	88人/日	309床	162床☆		28.5%	21.3日
全体	183病棟	5,566人/日	7,055床	7,055床	7,652床	73.9%	18.2日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- 回復期全体の病床稼働率が80%を超えている数少ない圏域（当該圏域と南西部のみ）である。また、回復期病床における1日あたり入院患者数も令和4年度調査（1,337人）と比較して増加している。そのため、回復期病床に一定の需要があると考えられる。ただし、現状では定量基準適用時の回復期病床数は、地域医療構想の必要病床数を約630床下回っている。
- そのため、地域医療構想の必要病床全体数に対して、現在の全体病床数の不足差分である約600床において、回復期病床として拡充することで地域医療構想に沿った医療体制を整備できる可能性がある。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	508人/日	75.0%	62.5%
急性期	1,846人/日	78.0%	69.6%
回復期	1,501人/日	90.0%	81.9%
慢性期	1,623人/日	92.0%	85.2%
不明	88人/日	—	28.5%
合計	5,566人/日	—	73.9%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		88.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		79.8%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		79.7%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		81.6%
うち産科・小児科を除く有床診療所		52.0%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	2床
急性期	94床
回復期	10床
慢性期	41床
休棟中・無回答	162床
	309床

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	14病床	127人/日	151床	79.4%	4.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	13病床	396人/日	531床	63.1%	8.1日	
		急性期	33病床	1,094人/日	1,381床	76.0%	12.4日	
		回復期	30病床	805人/日	1,215床	73.9%	19.8日	
	回復期リハビリ病床	回復期	12病床	441人/日	527床	83.6%	65.3日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	10病床	431人/日	553床	77.9%	448.5日	
	医療療養病床	慢性期	26病床	1,255人/日	1,370床	91.4%	117.5日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	1病床	3人/日	3床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	9病床	97人/日	160床	65.3%	6.0日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	3病床	46人/日	93床	49.3%	8.8日	
		回復期	2病床	63人/日	97床	65.4%	8.2日	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	17病床	356人/日	574床	49.8%	31.4日	
	休棟・休床中	不明/休棟	7病床	8人/日	154床	5.1%	6.8日	

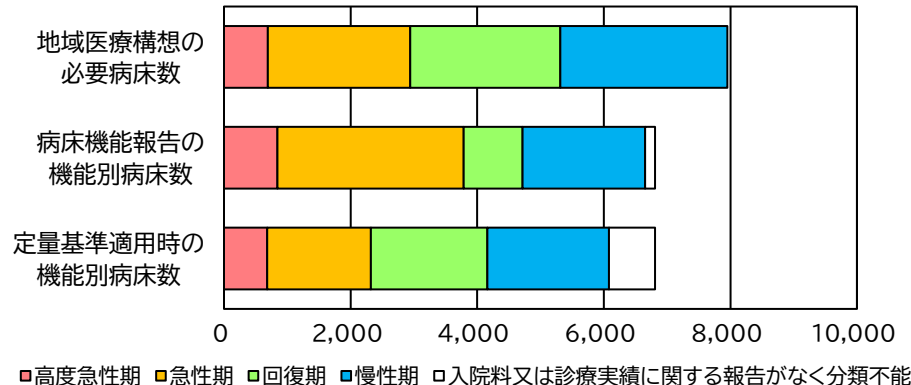
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	28病床	526人/日	685床	844床	694床	67.0%	6.7日
急性期 計	45病床	1,237人/日	1,634床	2,943床	2,249床	73.3%	11.2日
回復期 計	44病床	1,309人/日	1,839床	932床	2,370床	76.6%	24.1日
慢性期 計	36病床	1,685人/日	1,923床	1,936床	2,638床	87.1%	148.6日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	24病床	364人/日	728床	154床☆		38.9%	28.2日
全体	177病床	5,121人/日	6,809床	6,809床	7,951床	74.0%	20.3日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満」「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題】

- この圏域は他圏域と比較して、地域医療構想の全体の必要病床数と実際の全体病床数の差が大きい(約1,100床不足)ため、需給に合わせて病床を再編するだけでは、既に不足している区分の病床をさらに減らしてしまう恐れがある。よって、現状地域医療構想の必要病床数に近い高度急性期病床を除き、他3機能区分の病床数の拡充が必要であると考えられる。
- また、慢性期病床の1日あたり入院患者数は多く、病床稼働率も高い状況である。加えて、人口推計から、将来的には65歳以上の人口比率が高まっていく圏域である。そのため、現時点で不足している慢性期病床を中心に、他圏域との連携を含め、医療体制を整えることが望ましい。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	526人/日	75.0%	67.0%
急性期	1,237人/日	78.0%	73.3%
回復期	1,309人/日	90.0%	76.6%
慢性期	1,685人/日	92.0%	87.1%
不明	364人/日	—	38.9%
合計	5,121人/日	—	74.0%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床		83.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1、一般病床7:1		82.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床		66.6%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等		85.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所		81.0%
うち小児科の一般病床・有床診療所		65.4%

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	312床
回復期	148床
慢性期	114床
休棟中・無回答	154床
	728床

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【利根圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	12病棟	89人/日	112床	67.3%	3.3日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	9病棟	323人/日	379床	84.2%	9.5日	
		急性期	27病棟	908人/日	1,340床	68.5%	12.0日	
		回復期	19病棟	574人/日	877床	65.6%	17.3日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	8病棟	304人/日	370床	77.0%	56.9日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	6病棟	264人/日	323床	81.8%	89.8日	
	医療療養病床	慢性期	11病棟	444人/日	502床	87.6%	160.3日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病棟	急性期	5病棟	76人/日	141床	57.4%	5.5日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	2病棟	54人/日	80床	67.9%	14.5日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病棟	3人/日	14床	21.6%	18.4日	
その他	不明	不明/休棟	13病棟	120人/日	282床	48.3%	18.8日	
	休棟・休床中	不明/休棟	5病棟	0人/日	117床	0.0%	-	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	21病棟	412人/日	491床	423床	426床	80.5%	7.2日
急性期 計	34病棟	1,038人/日	1,561床	2,231床	1,580床	67.4%	11.0日
回復期 計	27病棟	877人/日	1,247床	720床	1,448床	68.8%	22.1日
慢性期 計	18病棟	711人/日	839床	1,046床	1,176床	84.0%	118.0日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	18病棟	120人/日	399床	117床☆		32.8%	18.8日
全体	118病棟	3,159人/日	4,537床	4,537床	4,630床	69.3%	15.7日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

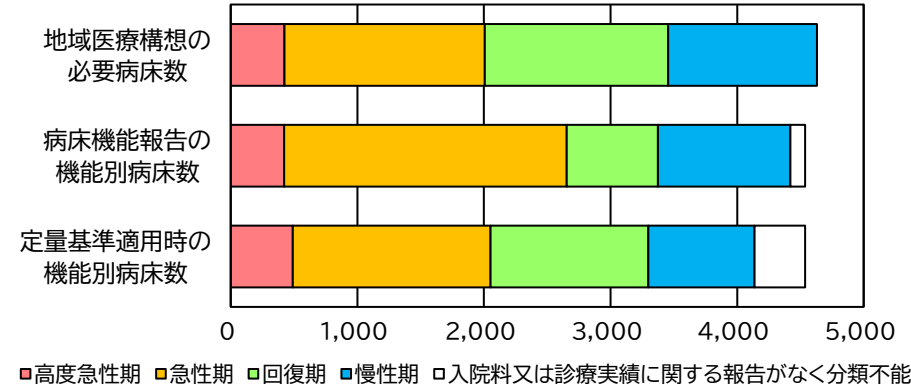
☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満」「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	412人/日	75.0%	80.5%
急性期	1,038人/日	78.0%	67.4%
回復期	877人/日	90.0%	68.8%
慢性期	711人/日	92.0%	84.0%
不明	120人/日	—	32.8%
合計	3,159人/日	—	69.3%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		77.0%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		72.6%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		58.2%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		74.1%
うち産科・小児科を除く有床診療所		36.7%
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	167床
回復期	30床
慢性期	85床
休棟中・無回答	117床
	399床



【集計分析結果から想定される課題】

- 全体でみると総病床数は現時点で既に地域医療構想の必要総数と近い数である。病床稼働率の適正化を目指して今後の需要変動に応じて対応していくことが重要になる。
- 高齢化が加速する中、2050年には65歳以上の人口比率が40%を超える見込みであり、医療の比重はより回復期・慢性期に偏重するであろうことから、回復期・慢性期において病床の比率を増やす、病床稼働率を向上させるなどの更なる適正化が望まれる。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【北部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病床	102人/日	142床	55.8%	4.5日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	5病床	208人/日	228床	88.7%	11.2日	
		急性期	18病床	574人/日	759床	75.6%	13.1日	
		回復期	25病床	737人/日	1,051床	75.4%	19.5日	
	回復期リハビリ病床	回復期	3病床	151人/日	155床	96.1%	47.0日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	4病床	112人/日	126床	85.8%	2432.8日	
	医療療養病床	慢性期	17病床	692人/日	842床	85.6%	203.9日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	6病床	99人/日	248床	45.6%	6.8日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病床等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	13人/日	42床	31.7%	7.3日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	1病床	8人/日	14床	58.9%	16.2日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	12病床	154人/日	246床	59.0%	18.1日	
	休棟・休床中	不明/休棟	5病床	0人/日	113床	0.0%	-	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	12病床	310人/日	370床	420床	327床	77.9%	8.3日
急性期 計	26病床	695人/日	1,063床	1,885床	1,258床	68.2%	11.7日
回復期 計	28病床	889人/日	1,206床	411床	1,066床	77.6%	21.1日
慢性期 計	21病床	804人/日	968床	1,137床	791床	85.7%	233.1日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	17病床	154人/日	359床	113床☆		39.1%	18.1日
全体	104病床	2,851人/日	3,966床	3,966床	3,442床	72.7%	18.6日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

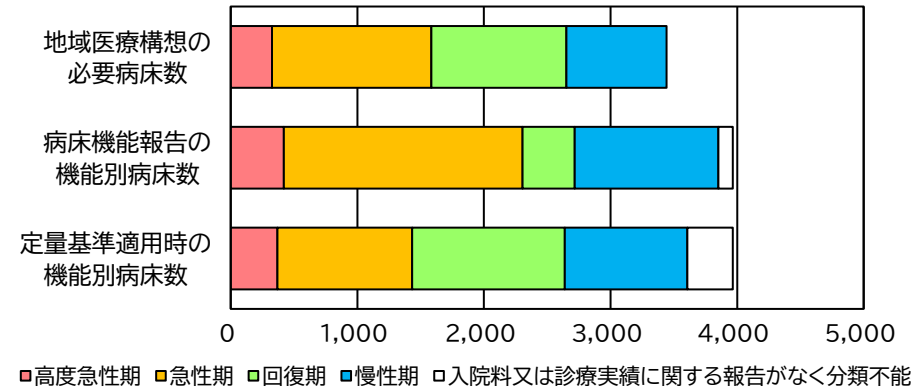
☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	310人/日	75.0%	77.9%
急性期	695人/日	78.0%	68.2%
回復期	889人/日	90.0%	77.6%
慢性期	804人/日	92.0%	85.7%
不明	154人/日	—	39.1%
合計	2,851人/日	—	72.7%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床		96.1%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1、一般病床7:1		85.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病床		60.3%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等		79.8%
うち産科・小児科を除く有床診療所		47.6%
うち小児科の一般病床・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	112床
回復期	29床
慢性期	105床
休棟中・無回答	113床
	359床



【集計分析結果から想定される課題】

- 地域医療構想の必要総病床数よりも現在の病床数が既に多い圏域でありながら、病床稼働率が高いのが特徴である。特に回復期リハビリテーション病床の稼働率が高いが、回復期として届出られた病床数は非常に少ない。回復期の1日当たり入院患者数は、令和4年度調査(677人)と比較して増えており、需要にあわせて柔軟に対応していくことが求められている。

令和5年度病床機能報告 定量基準分析結果【秩父圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		急性期	3病棟	107人/日	155床	69.1%	14.6日	
		回復期	3病棟	72人/日	136床	52.7%	22.8日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	1病棟	35人/日	40床	88.4%	81.7日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	1病棟	52人/日	60床	86.7%	64.2日	
	医療療養病床	慢性期	5病棟	142人/日	225床	63.0%	89.6日	
周産期	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
その他	不明	不明/休棟	4病棟	51人/日	97床	52.2%	13.9日	
	休棟・休床中	不明/休棟	1病棟	0人/日	29床	0.0%	-	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	0病棟	0人/日	0床	0床	31床	-	-
急性期 計	3病棟	107人/日	155床	302床	174床	69.1%	14.6日
回復期 計	4病棟	107人/日	176床	126床	181床	60.8%	29.9日
慢性期 計	6病棟	194人/日	285床	285床	214床	68.0%	81.0日
機能区分不明または休棟・休床中の病床(※)	5病棟	51人/日	126床	29床☆		40.2%	13.9日
全体	18病棟	458人/日	742床	742床	600床	61.8%	27.0日

※「機能区分不明」とは、入院料の届出し・不明、様式2不提出等により判定ができないもの。

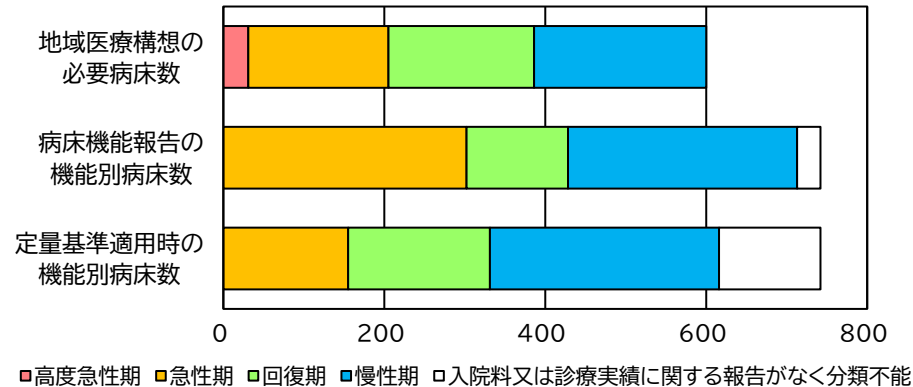
☆…病床機能報告中、「当年7/1時点の医療機能」が「休棟・休床中」または無回答のもの

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	0人/日	75.0%	-
急性期	107人/日	78.0%	69.1%
回復期	107人/日	90.0%	60.8%
慢性期	194人/日	92.0%	68.0%
不明	51人/日	—	40.2%
合計	458人/日	—	61.8%

回復期の内訳		病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟		88.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1		36.1%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟		-
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等		62.3%
うち産科・小児科を除く有床診療所		-
うち小児科の一般病棟・有床診療所		-

4機能区分	入院料や診療実績に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	97床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	29床
	126床



【集計分析結果から想定される課題】

- 地域医療構想の必要病床数における全体数を上回る病床数を有している圏域であるが、総人口は減少していく圏域である。また、高度急性期を有する病床が圏域内になく、山間地域であるという地域特性も併せ持つ特徴的な圏域である。そのため、人口推移に沿った病床数を確保することに加えて、高度急性期病棟不在の現状に対応するため、県で推進されている群馬県との救急医療情報システムの連携といった他圏域との連携強化による医療体制構築をしていく必要がある。

各圏域の定量基準による機能別病床稼働率（令和5年度報告）

	4機能区分まとめ					合計
4機能区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
埼玉県全体	72.8%	72.5%	74.7%	81.5%	32.7%	72.8%
南部	70.3%	73.1%	70.4%	64.0%	29.4%	68.9%
南西部	66.0%	79.5%	80.1%	88.3%	42.6%	79.8%
東部	68.2%	71.5%	69.5%	70.3%	23.3%	68.3%
さいたま	80.9%	75.2%	76.6%	82.6%	30.7%	77.0%
県央	81.5%	76.3%	68.9%	82.9%	20.9%	71.3%
川越比企	62.5%	69.6%	81.9%	85.2%	28.5%	73.9%
西部	67.0%	73.3%	76.6%	87.1%	38.9%	74.0%
利根	80.5%	67.4%	68.8%	84.0%	32.8%	69.3%
北部	77.9%	68.2%	77.6%	85.7%	39.1%	72.7%
秩父	-	69.1%	60.8%	68.0%	40.2%	61.8%

各圏域の定量基準による機能別平均在棟日数（令和5年度報告）

	4機能区分まとめ					合計
4機能区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
埼玉県全体	 7.8日	 10.3日	 23.6日	 140.0日	 18.9日	 16.4日
南部	 7.7日	 10.3日	 22.5日	 77.6日	 26.3日	 14.1日
南西部	 6.5日	 9.7日	 21.9日	 148.9日	 29.7日	 16.4日
東部	 10.1日	 9.9日	 25.9日	 105.1日	 19.9日	 15.7日
さいたま	 7.6日	 10.0日	 22.1日	 204.8日	 13.3日	 13.7日
県央	 6.9日	 10.4日	 28.0日	 130.6日	 8.4日	 15.6日
川越比企	 9.5日	 9.8日	 25.7日	 169.5日	 21.3日	 18.2日
西部	 6.7日	 11.2日	 24.1日	 148.6日	 28.2日	 20.3日
利根	 7.2日	 11.0日	 22.1日	 118.0日	 18.8日	 15.7日
北部	 8.3日	 11.7日	 21.1日	 233.1日	 18.1日	 18.6日
秩父	-	 14.6日	 29.9日	 81.0日	 13.9日	 27.0日